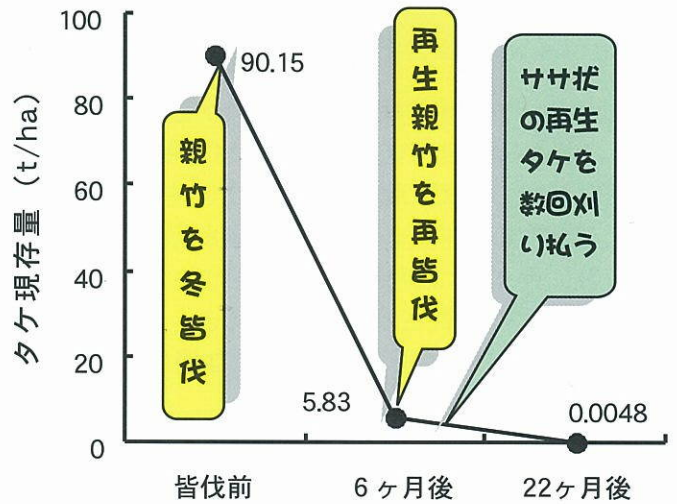


あきらめるのはまだ早い！

タケが侵入した造林地が外見上竹林と化しても、林内に入ればかなりの造林木がまだ生き残っていることがあります。このような造林地ではすぐに侵入したタケを皆伐して根絶やしにする必要があります。実地試験によると、タケ密度196本/10aの造林地では1年間、タケ密度560本/10aの造林地（右図）でも2年間継続して皆伐することで、タケの再生をほぼ抑えることができました。



タケ1本、4分で242円!?

造林地に侵入したタケを放置すると年々本数が増加し、それに伴って伐竹の経費や労働力もかさんでいきます。実際に作業して算出したところ、3人1組で伐竹・整理するのに1本当たり242円の経費が掛かり、その処理本数は1日当たり約100本、1本当たりの作業時間は約4分でした。

調査結果	実働時間	9時間20分
	伐竹本数	142本
	伐竹時間/本	3分56秒
1日6.5時間の労働に換算した場合	伐採本数/日	99本
	人件費単価 (円/日)	男 10,000円
		女 7,000円
1本伐竹するのに必要な経費 =		$(10,000 + 2 \times 7,000) / 99 = 242.4$ 円

ササ状の再生タケがくせ者

親竹を皆伐されたタケはダメージを早く回復させようと、地下茎をそのまま地表に伸ばしてササ状の再生タケを発生させます。この再生タケは刈り払っても地中の節から萌芽再生し、おまけに植物体は親竹のおおよそ1/200程度の重さしかないため、再生による地下茎の養分消費もほとんど期待できません。また、この再生タケを多数発生させてしまうとその後の刈り払い作業が煩わしくなり、特に枝条棚が発生した再生タケは見逃しやすい上に除去しにくいので、これが竹林再生の温床にもなりかねません。



地下茎が伸びて再生タケとなる



刈り払い後に萌芽した個体

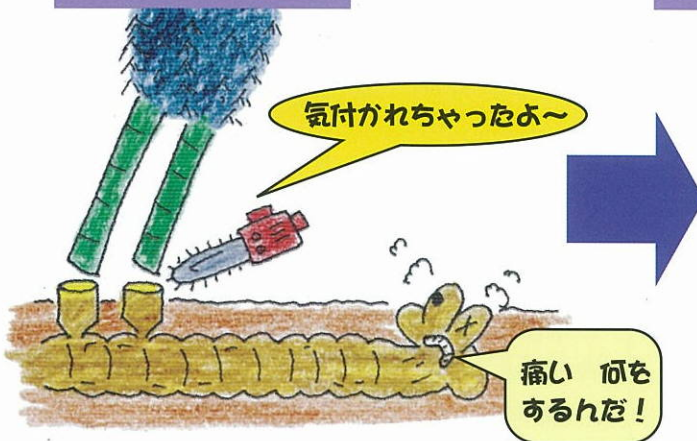


枝条棚が竹林再生の温床になりやすい

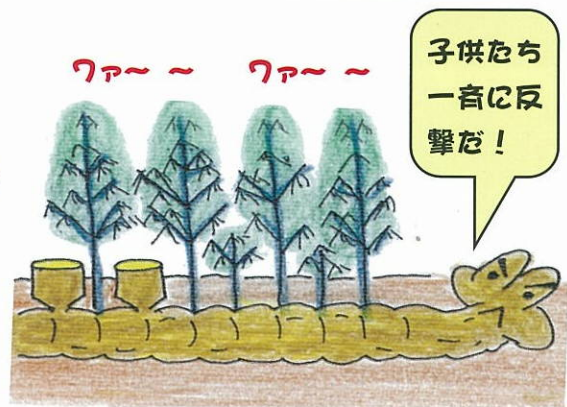
冬期に初回皆伐を実施しよう！

皆伐によって効率的にタケを駆逐するには、なるべく早く地下茎の養分を消費させることと、萌芽しやすい再生タケの発生をいかに減らすかがポイントになります。このカギを握るのが初回皆伐の時期です。初回皆伐を地下茎の成長時期（6～11月）に実施すると、直ぐに多数の再生タケが発生します。一方、成長休止期（12～2月）に実施すると、再生タケは直ぐには発生せず、まず翌春にタケノコが発生し、そのタケノコが親竹に成長します。この親竹を再皆伐すれば地下茎の養分を効率よく消費させることができ、その後ようやく発生してくる再生タケも本数が少なくて済みます。ただし、親竹の再皆伐が困難な場合は、タケノコの時点で蹴飛ばす方法もある程度の効果が期待できます。

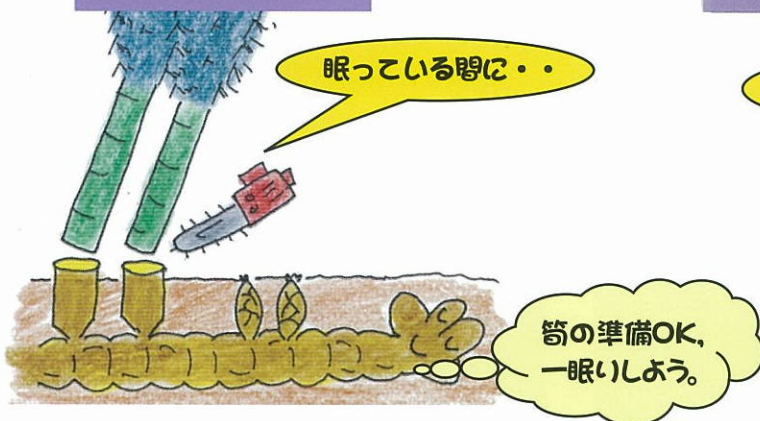
夏に初回皆伐



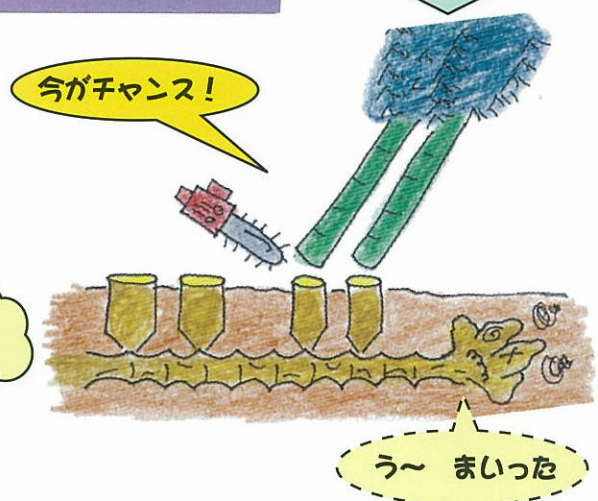
夏～秋、再生タケが多数発生



冬に初回皆伐



初夏に再皆伐



親竹1本は、再生タケ約200本に相当

除草剤はラベルを確認しよう

現在、タケ類を適用雑草として農薬登録申請中の除草剤があります。これはタケの稈に穴をあけ、その中に除草剤を注入して施用するタイプのものです。この除草剤が正式に農薬登録されれば、除草剤を用いてタケを駆逐することもできるようになりますが、農薬の使用は法律によって厳しく制限されています。除草剤の使用に際しては、必ずタケ類が適用雑草として記載されているかラベルを確認するとともに、そこに記載されている施用回数や施用濃度などを遵守して使用しましょう。

埋設資材もそれなりに有効

地 下茎が貫通しない素材（トタン波板など）を深さ50cm、地上10cmで埋設すればタケの侵入防止に有効ですが、施工時に底固めをしないと素材の下を潜って侵入してしまいます。また、資材のつなぎ目からも侵入しやすいので、なるべくつなぎ目をなくす工夫が必要です。なお、施用には重機を必要とし、定期的に埋設資材の維持管理（劣化に伴う資材交換や資材地上部の埋没防止のための落葉・土砂等の除去）も必要なので、あまり実用的とは言えません。

予防と駆逐は計画的に！

民 有造林地におけるタケ侵入対策は、以下の事項を念頭におき、計画的に実行してください。

- ① タケの侵入前線はおおよそ2 m/年で拡大し、地下茎は時に年6 m余り伸長する場合もあるという認識を持つこと。
- ② ①の事項を踏まえ、周囲に存在する竹林あるいは侵入前線との距離を把握した上で森林整備計画を立てることで、タケの侵入を未然に防ぐこと。
- ③ 通常の管理（5年毎）でタケが侵入したとしても、次回森林整備時のタケ密度は100本/10a程度と低いことから、タケを1年間継続的に皆伐して確実に駆逐すること。
- ④ 造林地に侵入したタケの密度が200本/10a程度なら1年間、500本/10a程度なら2年間を目安に継続的に皆伐し、その後はタケの再生状況を確認しながら対応すること。
- ⑤ タケの初回皆伐は冬期に実施し、次回皆伐はタケノコが親竹に成長した直後に実施するか（より効果的）又はタケノコの時点で蹴飛ばすこと。



竹林が侵入した造林地の外観



竹侵入対策（伐竹）後の造林地の外観

※このパンフレットは、林業普及情報活動システム化事業「森林生態系に配慮した竹類の侵入防止法と有効利用に関する調査」（平成11～15年）の研究成果を基に作成しました。



【問い合わせ先】

林業振興課林業専門技術員

鹿児島市鴨池新町10-1

電話 099-286-3374

FAX 099-286-5609

林業試験場

始良郡蒲生町上久徳182-1

電話 0995-52-0074

FAX 0995-52-0078

